

事業名	IoTを活用した藻類養殖の食害対策及び安定生産手法の検討
予算区分	計画調査費（経営推進課）
事業実施期間	令和4年度～令和6年度
担当者	（環境増養殖担当）岡本裕太
共同研究機関等	

<目的>

近年、ワカメやノリの藻類養殖の漁場では気候変動（海水温上昇）に伴い、魚類による食害が深刻化しており、生産に大きな影響が生じている。そのため、IoTの活用により、食害生物を特定するとともに、その出現条件を把握し、有効な食害対策手法を検討する。

スジアオリ養殖においては、漁場の位置によって生長具合が異なるため、漁場ごとの環境と藻体の生長の関係を把握し、スジアオリの安定生産手法を検討する。

<方法>

スジアオリ漁場の環境調査では、種場（天然環境下で養殖用種苗を種網に付着される場所）の上流側と下流側の2点で2024年10月22日から2025年2月15日の117日間、本養殖漁場（種場で採苗後、藻体を伸長させる場所）の上流側と下流側の2点で2024年11月23日から2025年3月3日の101日間、測器を設置し、水温と塩分を測定した。

<結果>

スジアオリ漁場の環境調査では、種場の水温は、測定期間を通して上流の方が低い傾向が見られたが、それほど大きな差はなかった（図1）。種場の塩分は、測定期間を通して、上流の方が下流に比べて低かった（図2）。本養殖漁場の水温については、種場同様に大きな差はなかった（図3）。本養殖漁場の塩分については、種場と同様、上流の方が下流より低かった（図4）。漁業者への聞き取りでは、今漁期も昨漁期と同様に種場、本養殖漁場ともに、上流側の成績が良かったとのことであった。

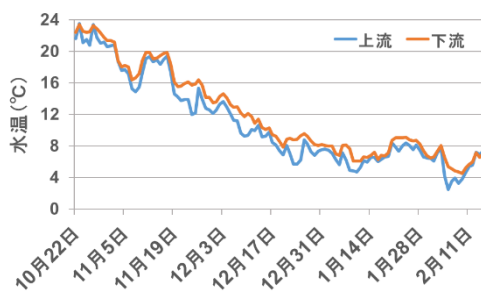


図 1. 種場における水温の推移

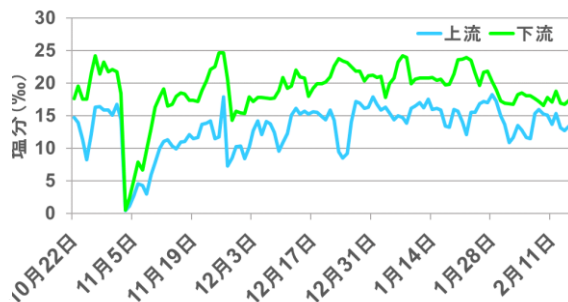


図 2. 種場における塩分の推移

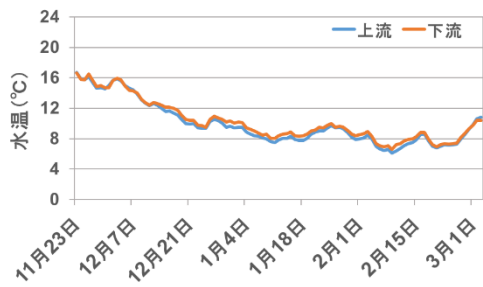


図 3. 本養殖漁場における水温の推移

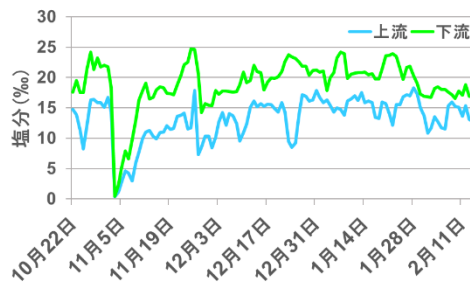


図 4. 本養殖漁場における塩分の推移

<次年度の計画>

終了する。

<結果の発表・活用状況等>

特になし。